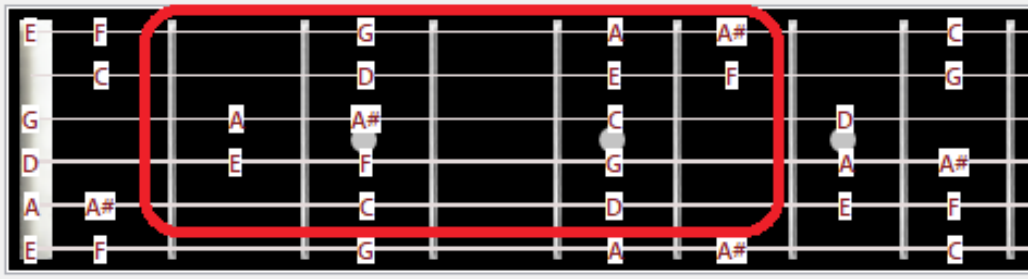
Vol.16　X7 コードの構造を確認してみる　～その 2～

では、vol.16、始めていきましょう。

引き続きドミナント 7th コードのアルペジオをやっていきますが、今回は 5 弦のポジションについてです。

コードは同じく C7 で、C ミクソリディアンをベースに考えていきましょう。

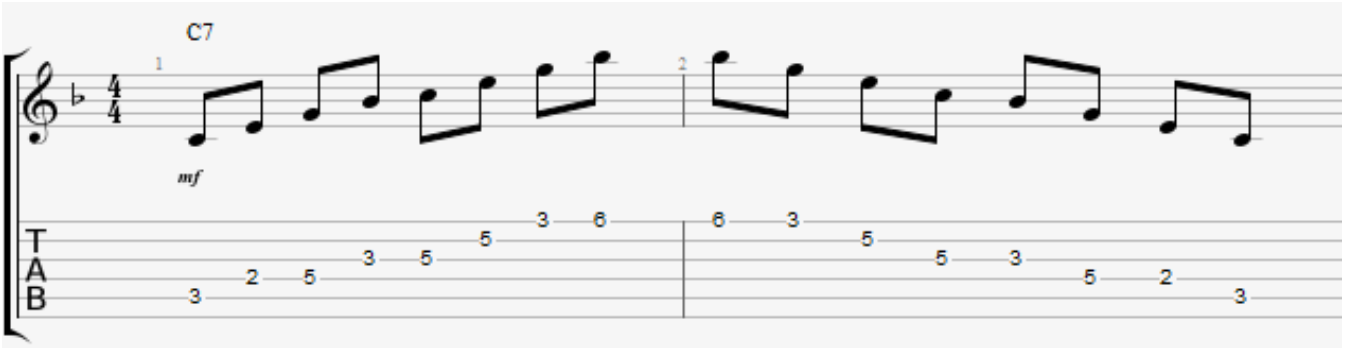
ポジションは、おそらく皆さんお馴染みの、この辺り。



(※A♯は B ♭に読みかえて下さい)

譜例は以下になります。

譜例 1



さて、この譜例は、トニック(ルート)から見てボディ側のポジションへ進んでいるものですが、これまでやってきた様にヘッド側に進むことも出来ます。

それをここでやっても良いのですが、もう過去に沢山やってきましたし、そろそろ別の見方をしてみましょう。

もし、この 5 弦ルートのポジションでも、ヘッド側にドミナント 7th コードのアルペジオを取りたい場合は、前回(vol.15)の譜例 2 を参考にしてもらえればと思います。

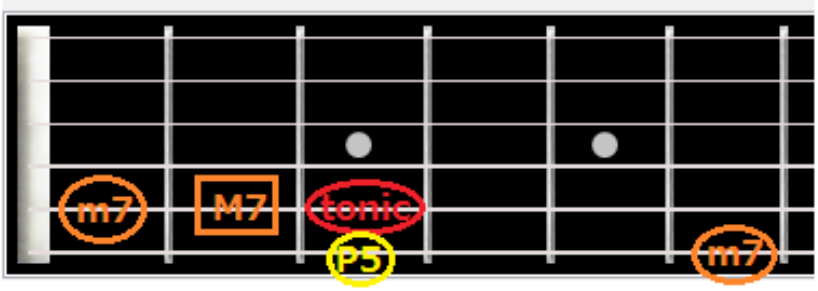
今回は新たに、5 弦にトニック(ルート)を見た場合、「それより低い音のインターバルを取る」と言う事を、やっていきましょうか。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

6 弦にトニックを見た場合、多くの場合、その音を最低音の様に見る事になりますが(基本的には)、5 弦にトニックを見ると、その音の後ろ(音程的に低い方)にも、まだまだ使いやすい音があるわけです。

その中から、代表的なコードトーンである 7 度(M7th or m7th)と 5 度(P5th)の位置を覚えてしまいましょう。

それぞれの音の配置は、指板上で見るとこうなっていますね。

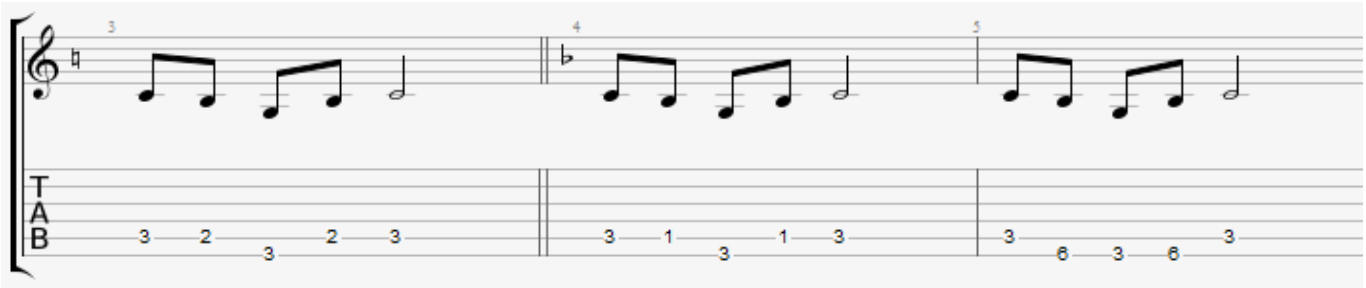


図では 5 弦 3 フレット C 音を基準にしていますが、どこにトニックを取っても配置は同じです。

これらの音の位置が分かることによって、スケールポジションの拡張がしやすくなります。

以下の譜例は、1 小節目が M7th 系の、2、3 小節目が m7th 系の位置取りです。

譜例 2



この動きがパッと出来る(音の配置がパッとわかる)と、スケールの横移動に強くなっていきます。(※ちなみに、4 弦にトニックを置いても、全く同じ位置に同じ音があるので、それも確認しておいてください)

これがわかった上で、すでに覚えているスケールを改めて弾いてみると、左右のポジションとの位置関係が見えてきて、より理解が深まるでしょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved